

[目次]

雑誌名	日本文学誌要
巻	61
発行年	2000-03-24
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020088

〈巻頭言〉

現代文学の可能性あるいは終焉の杞憂……………立石 伯 (四)

〈論文〉

『くれない』の問題……………勝又 浩 (八)

歴史と言語のはざまで ―トニオ・クレール風―……………宮内 豊 (十五)

日本の現代美術を考える ―二十世紀末にあつて―……………高草 茂 (二六)

江藤淳の「自殺」とその意味……………西尾 雅裕 (三七)

ニヒリズム超克の試みとその挫折 (二)

―梅崎春生の一九五〇年前後の私小説的作品群、及び可能性としての『山名の場合』―……………戸塚 麻子 (四五)

ガイドライン関連法 ―概観と私見―……………和田 康友 (五八)

慶長七年刊古活字本『太平記』覚書 (下)……………小秋元 段 (六八)

〈法政今昔〉

空白の世代……………高崎 隆治 (八〇)

〈随想〉

現代音楽のたのしみ……………杉本 圭三郎 (八二)

成長する野の石 ―国歌「君が代」以前―……………濱田 弘美 (八四)

古くて新しい連句……………高橋 順子 (八六)

『土とふるさとの文学全集』のこと——成立事情私的補遺——……………南雲 道雄 (八八)

現代の書……………星 ミユキ (九〇)

現代の子ども——塾を通して見る——……………鈴木 幸子 (九二)

柳美里の文章について……………阿部 和之 (九四)

都市空間芸術の今日的課題——公共彫刻についての新しい知見の紹介——……………玉木 金男 (九六)

〈追悼〉

「チューリップ裁判」の近藤宮子さんを思う……………小林 茂夫 (九九)

〈展望〉

ノートルダム（我らが奥方）の国から……………天野 紀代子 (一〇二)

〈新刊紹介〉

下沢勝井著『文学作品の中の村と農民像』……………今谷 弘 (一〇六)

望月郁子著『仏教界に辞書は在ったか——古字書の新研究——』……………間宮 厚司 (一〇七)

長谷川啓編『〈転向〉の明暗——「昭和十年前後」の文学』……………大和田 茂 (一〇八)

東喜望著『沖縄・奄美の説話と伝承』……………岩見 清一 (一〇九)

〈そとぼり通信 No. 37〉……………(一一一)

〈卒業特集〉